

消化器・肝臓センター

NEWーす

NO. 51

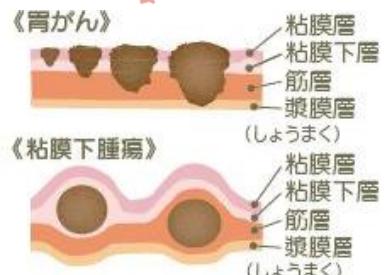
2019.9

胃粘膜下腫瘍に対する手術

粘膜下腫瘍とは

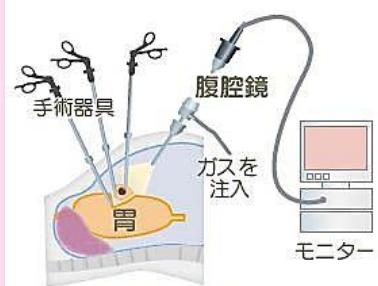
「胃がん」が胃の粘膜で発生し、進行すると下の組織にすすんでいくのに対し、「粘膜下腫瘍」は粘膜下層や筋層で発生します。

大きくなると他の臓器に転移したり播種する（バラバラと広がる）可能性もあり、2cmを越え悪性所見がある場合は切除が必要です。リンパ節転移はないため、胃がん手術のようなリンパ節廓清（リンパの切除）は不要です。



【腹腔鏡下胃部分切除】

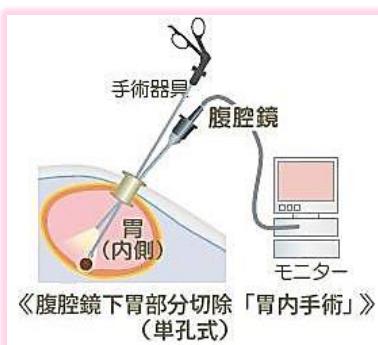
粘膜にある腫瘍であれば、内視鏡（胃カメラ）のみで切除することができますが、粘膜下腫瘍では適応となりません。そのため、手術での切除が必要となります。粘膜下腫瘍の病変部切除を腹腔鏡下で行うのが「腹腔鏡下胃部分切除」です。創部が小さいため、痛みが少なく回復が早くなります。



《腹腔鏡下胃部分切除》

【腹腔鏡下胃内手術】

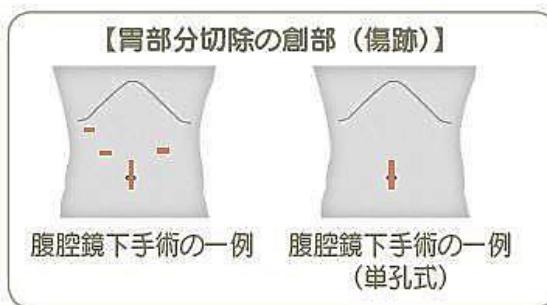
胃内突出型の腫瘍では、「胃内手術」を行っています。腹腔鏡と手術器具を胃の中に入れ、胃の中から腫瘍を切除します。胃の切除範囲も少なくてすみ、術後の機能障害もほとんどありません。



《腹腔鏡下胃部分切除「胃内手術」（単孔式）》

■ 単孔式手術

どちらの手術も単孔式手術で行っています。お臍の一つの孔から腹腔鏡と手術器具を差し込んで手術を行います。そのため、体表の傷跡が1個ですみます。



【胃部分切除の創部（傷跡）】



腹腔鏡下手術の一例

腹腔鏡下手術の一例
(単孔式)

外科 川田 純司
辻伸 利政
今本 治彦